



VOL 51

2014年6月号

発行2014年6月25日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

## 国土地理院と日本山岳会

国土交通省国土地理院地図と測量の科学館の企画展『今西錦司 三角点を巡る 1550 山登頂の記録』に寄せるメモ

田中大和

今西錦司は、1973(昭和48)年から1977(昭和52)年まで、社団法人日本山岳会の第12代会長を務められています。日本山岳会は、1905(明治38)年に設立されました。日本で最も歴史の古い山岳会として、また日本を代表する国際的なアルパイン・クラブとして、登山界の発展に寄与しています。新田次郎の原作で、木村大作の監督・撮影により映画化された「劔岳・点の記」には、1907(明治40)年7月に国土地理院の前身の陸地測量部が劔岳に初登頂したことを描かれており、陸地測量部と日本山岳会との間で、互いに競い合っている姿が描かれていますが、実際には、協力関係が築かれていたようです。

1909(明治42)年7月、日本山岳会の石崎光瑠らは、2年前に陸地測量部を案内した宇治長次郎らの案内により劔岳の登頂を果たしています。また、同月、日本山岳会の小島烏水、高頭仁兵衛らは、赤石岳を登頂しています。これらの登頂の際に撮影された写真が残っていますが、陸地測量部が設置した目標や櫓が写されています。

1911(明治44)年5月に東京府体育会館で開催された日本山岳会の第4回大会で陸地測量部の柴崎芳太郎が「山岳と三角点測量」の演題で講演をしています。(当時の案内状には、「目下交渉中の某氏」とだけ、書かれています。)

今西錦司が会長時代に日本山岳会は創立70年を迎えています。機関誌「山岳」の創立70周年記念号に向けて1976(昭和51)年5月に寄稿した「私における登山の変遷」の中には、「地図に赤線をひくこと」といわれる、赤線の美学について記されています。

現在の国土地理院と日本山岳会の間では、2005(平成17)年まで実施された中央分水嶺踏査(日本山岳会創立100周年記念事業)や、2008(平成20)年からGPSを用いた登山道の調査を行うなど、協力関係を一層深くしており、2010(平成22)年には、国土地理院測図部長と日本山岳会長との間で「登山道調査の交換に関する協力協定書」により、登山道の変化情報、位置情報についての情報交換について、具体的な協力関係が確立されています。

(文中敬称略)



1909(明治42)年7月、石崎光瑠ら4名、宇治の宇治長次郎らの案内で初登頂する  
In July, 1909, Keizo ISHIZAKI guided by Chozo UJI climbed Mt. Tsurugi for the first time.



1909(明治42)年5月27日、東京府体育会館で開かれた日本山岳会第4回大会で陸地測量部の柴崎芳太郎が「山岳と三角点測量」の演題で講演をしています。(当時の案内状には、「目下交渉中の某氏」とだけ、書かれています。)  
At the lecture of Mr. Akashi in July 27, 1911, given at the Sports Club, Tokyo, Mr. FUKUDA, Chief of the Geodetic Survey, explained the importance of triangulation points in mountain surveying.  
The next year, around that job, KAWASUMI NAKAMURA



私における登山の変遷

表題に「私における」というような、へんな前置きをつけたわけは、いずれのちほどわかることとして、はじめに私は、日本山岳会の七十年にわたる歴史をかえりみながら、それぞれの時期における登山の特徴をとらえ、それによってわが国における登山史の、いわば一種の時代区分を試みておこうとおもっているのである。

時代区分といっても、ごく大づかみに分けて、近代登山技術導入以前の前近代的登山時代、それから近代登山技術の導入によって、近代的登山時代にはいり、岩登りや積雪期登山はさかんにおこなわれるようになったけれども、戦争のためヒマラヤまで出かけることの困難であった時代をへて、最後に今日見るようなヒマラヤ時代を迎えるにいたった、という三区分だったから、おそらくこれに反対する人はいないであろう。

しかし、もう少し細かくみて、それでは時代の区切りを、年代的にどの辺にひくか、ということになると、ここは人によって意見のわかれるところではなからうか。たとえば私は、第二時代、すなわちわが国における近代登山のはじまりにかんしては、一九二一年における横さんの、アイガー―東山稜の初登攀を重視したのであるけれども、そのこ

私における登山の変遷

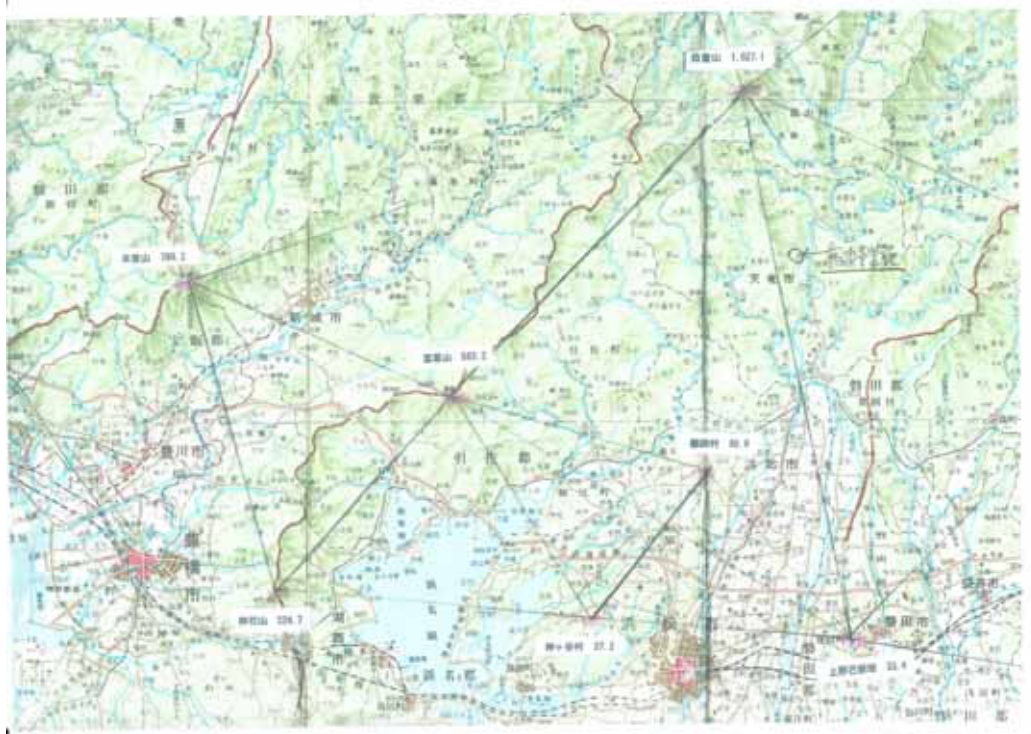
今西錦司

(7)



\*\*\*\*\*

次ページ参考MAP



三方が原基線網



行ってきました

三方ヶ原基線探索

北野忠彦

2014年4月19日～20日

4月19日(曇)

浜松9:40集合。駅前車でレンタル、市内でちょっと道が分かりにくかったが浜松城跡前を抜けて一路北西へ。西山の病院先で南西へ下ると、セブンイレブンの一角に三方ヶ原基線南点 神ヶ谷があった(N33°44'04.6" E137°40'26.1" H43m 磁針222°)(34°44'04" 137°40'25" 9908 37.17m)。



基線南端・神ヶ谷

この後、基線の跡と思われる直線道路を進み、三方ヶ原用水を越えたところで北上、都田(みやこだ)浄水場東側の果樹研究センター西はずれの小さな盛り土の上に都田村北端点が立っていた(11:45着)(N34°48'03.3" E137°44'50.3" H87m 磁針320°)(34°48'40" 6831 137°44'50" 1588 85.91m)。



基線北端・都田村

その後、都田総合公園内で昼食、都田川沿いに引佐に向かう。引佐の神宮寺川から富幕(とんまく)川が分かれたしばらく先、奥山高原の少し上まで車が入り、ここから登り始めた。すぐに4等点N34°50'58.7" E137°36'10.3" がありあとはほぼ直線的に登り、バラボラの建っている富幕山(とんまくやま・点名富巻山)山頂に着いた(14:30)(N34°50'58.6" E137°35'13.9" H572m 磁針0°)(34°50'05.8" 5588 137°35'13" 8862 563.24m)。



西側一次拡張点・富幕山

あとはひたすら天龍川沿いに北上し浜松市天竜区(旧天竜市)のカヌーの全国大会の拠点の宿になるという「湖畔の家」に泊まり美味しい食事を満喫した。



天龍川沿いの「湖畔の家」にて

4月20日(曇り後一時雨)

天龍川右岸を北上、秋葉トンネルを過ぎ、白倉川を遡る。白河集落の白倉峡の案内板を過ぎた、県道がヘアピン状になった六つの沢出合いに道標があるのを見つけ、車を置いて林道沢沿いに上がる(9:00)。林道を20分ほど上がると左手にトレースがありそこをたどる。かなり荒れた樹林帯のなかをしばらく登りようやく尾根に出る。そこから急登10分白倉山の頂上だが展望は全くない。(10:55)(N35°00'35.2" E137°46'19.9" H1027m 磁針336°)(35°00'35" 1097 137°46'19" 8764 1027.14m)。



二次拡張点(北側)・白倉山

元の道を下る途中、県道に出る手前で雨が降り出したが白倉山の三角点を確認できた満足感で今回の最後の地点上野巳新田に向かう。天龍川横山橋から左岸に移りひたすら左岸を走る。磐田市に入り食事をしようとうろろしたがなかなか見つからず、今日で店じまいという店で遅い食事にありつ

けた。

1号線から外れ南側に回り込んだので北に向って上がる。二差路から三角点に向かったがかなりな下りで点とはほど遠い地形で、少し戻り左手の住宅地に入った先に公園が見えた。一帯が古墳公園で、左手奥の高い古墳の上が上野巳新田(うわみのしんでん)だった(N34°43'24.5 E137°50'20.9 H30m 磁針0°)(34°43'24.3018 137°50'20.8671 33.43m)。



2日間の車の運転、近藤さん、今井さんありがとうございました。お疲れ様でした。

参加者7名(今井、近藤、関野、高橋、鶴田(實)、鶴田(泰)、北野)

備考

磁針:コンパスを三角点の縦軸に合わせて設置したときの磁針(赤)が示す角度

後の( ):一等三角点全国ガイド(ナカニシヤ)から引用の値

(北野 記)

\*\*\*\*\*

**行ってきました**

**関東ふれあいの道GPS山行**

**第1回 東京都1 湖のみち**

**北野忠彦**

2014年5月10日 快晴

第1回山行として湖のみちを選んだ。コースとしては高尾山口駅から1号路經由高尾山山頂 - 城山に向かうようになっているが、ここは割愛して小仏バス停を出発点とした。

高尾駅北口8:12のバスは満員だったが、ほとんどが日影で下車。小仏バス停周辺はきれいに整備されていて以前の面影は全くない。GPSの取り扱い練習も兼ねてバス停付近で測定(N35°38'22.7 E139°13'55.6 H280m)。

8:45出発。しばらく舗装道路を歩き、影信山への道を右手にわけやや登った先から細い山道になるが、旧甲州街道である都道の標としての道路標識が続くとやがて、小仏峠に出た(N35°38'07.9 E139°12'59.3 H568m)。峠には、高尾周辺や丹沢などの詳細地図を作った守谷氏がそれらの地図の宣伝・販売しており、さらにコンパスの使い方の解説をするということなのでその話をうかがった。

峠10:00発、城山10:35(4等三角点 N35°37'47.3 E139°13'16.5 H672m 磁針0°)。

城山発11:00、大垂水に向かう。下りの斜面は、チゴユリ、イカリソウの群落の続く中、キンラン、エビネなど初夏の花が咲きほこる。



大垂水11:55。ここから大洞山に向かう途中、09年12月の多摩川・相模川分水界を歩いたとき、氷の花 シモバシラが咲いていたことを思い出した。勢よく伸びているシモバシラが繁っていた。後で記録を見てみると、その時は今井さん、亡き井上希夫さん、千夏さんがメンバーだった。

大洞山12:30着。前回と丁度1時間遅れ。ベンチは10人余りの先客で一杯で切り落とされた木の枝の上に腰を下ろす。昼食後、このコースの撮影ポイントとなっているので全員で写真に納まる。その後コンピラ山、中沢山を経て相模川を見下ろす展望地点で休憩。この間、ニリンソウ、ホウチャクソウ、ジュウニヒトエ等の他、ヤマドリソウやタツナミソウなど普段目にできない花を楽しんだ。泰光寺

山14:50(三等三角点 N35°36'10.7 H489m 磁針190°)、三沢峠15:20(N35°36'08.0 E139°12'48.0 H424m)。あとは梅の木平への下りの1本道で梅の木平16:25に着いた。撮影ポイントが見つからなかったが、それも道理、ポイントは三沢峠だったのだが後の祭り。目の前のバス停をのぞくと本当にたまたま、1日に3本しかない八王子行きバス予定時刻が16:34だった。これに乗って八王子へ、駅前打ち上げ、まずのGPS山行を終えた。(井上、片野、川口、高田、高橋、鶴田、北野)

註:磁針は三角点の刻字面反対側の中心線からの北磁針(赤針)のずれで示す

(北野 記)

21-ジ 三方が原基線網MAP参照

\*\*\*\*\*

**図書案内**

竹村公太郎 著 **日本史の謎は「地形」で解ける**

PHP 文庫

なぜ頼朝は狭く小さな鎌倉に幕府を開いたか、なぜ信長は比叡山を焼き討ちしたか・・・日本史の謎を「地形」という切り口から解き明かす！とあるように、いままで諸説ある歴史の定説を覆す解釈が、なるほど！と納得させられる。第二弾「文明・文化編」も面白いので、是非一読を！(Y-kon)

AGC レポート vol-51 2014年6月25日発行  
発行:日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)  
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
編集担当:近藤 E-mail: info@hikarikon.com